

63

千代田区景観まちづくり重要物件

## 遠藤家住宅（井政）

指定日 2024（令和6）年12月23日

所在地 外神田二丁目16番 宮本公園内

設計者 -

竣工 1927（昭和2）年

文化財等  
指定状況 区有形文化財（建造物）



▲遠藤家住宅（井政）

## 歴史・文化的特徴

江戸時代から続く材木商の遠藤家。江戸城築城のために招集され、鎌倉材木座より神田鎌倉町（現在の内神田1丁目）に移り住みました。

現在の建物は関東大震災後の1927（昭和2）年に再建。1972（昭和47）年に当時資材置き場のあった府中市に移築、その後2009（平成21）年に千代田区有形文化財の指定を受け、神田の地へ再移築されました。

明治維新後、代々が井筒屋政蔵を襲名し、屋号を「井政」としました。

遠藤家先代、遠藤達蔵（16代目当主）は神田明神の氏子責任総代を務め、さらに御祭神でもある平将門公の研究をし、1960（昭和35）年、周辺大手企業の協力を得て将門塚保存会を発足。会長として将門公の復権に力を注ぎ、1984（昭和59）年、神田明神御祭神復興を実現しました。

## 意匠・構造の特徴

当初は平屋でしたが、1954（昭和29）年に1階の一部と2階を増築。府中市移築の際には、状態の良い部分だけを残したうえで、1階北側と玄関奥の廊下を増築。さらに当時敷地内にあった別棟の2階部分を玄関東側に据えました。

その後、神田への再移築にあたり、府中時代は畳敷きだった部屋を、土間と帳場というかつての店の姿に復元。また移築先の宮本公園が茶道江戸千家発祥の地であることにちなみ、玄関東側の和室を茶室へと改修しています。

正面は板張り、側面外壁には黒漆喰（江戸黒）、内部には屋久杉、霧島杉などの良材銘木などがふんだんに使用され、網代天井や格天井など、職人の技により仕上げが施されています。

1階に移した茶室は舟底天井になっており、幅広の屋久杉が板目杢で、竿縁には胡麻竹角貼りが通してあります。建具の引き手は扇子の金物、杉板透かし欄間他、江戸の粋な文化がそこかしこに散りばめられています。

## 周辺景観との関係

建物は宮本公園内に移築され、周辺には高台に位置する神田明神があり緑と歴史的な景観を形成しています。